

# ユリシーズ 第12挿話の考察

Barney Kiernan's (joyce project.comより)

## ■ イントロダクション

あらすじ

ブルーム氏の足跡

## ■ 語りについて

3 人称語り手について

1 人称の語り手について：オレ = 犬(柳瀬氏の発犬)

## ■ 内容について

伏線の回収、アイルランドの歴史

市民・政治学・愛



\*あくまで素人の考察なので誤りもあるかと思いますが・・・アマチュアの特権ということでご容赦ください

2021/6/27 ぬしろかずや

「クリシーズ」案内/北村富治著/宝島社/1994年出版/p182より

午後5時である。

貸し倒れ取立業をしている、正体不明なる「語り手＝おれ」がジョウ・ハインズと合い連れ立ってバーニー・キャナンのパブへ飲みに行くと「市民」がすでに酒をたかろうと待ち構えていた。

酒を飲んでいるとアルフ・バーガンがやってきて、隅っこで酔い潰れて寝転んでいるボブ・ドーランを見つける

まだ薄暮にもなっていない時刻から何人もの連中が日常の俗事を酒の肴にして飲んだくれていた。ブルームはパブの前までやってきたが、中に入らないで外を行ったり来たりしている。「市民」がこれを目ざとく見つけ中に請じ入れる。ブルームはやむなく中に入り、“マーティン・カニンガムは来ているか”と訊ねる。ブルームはディクナムの生命保険の件でカニンガムと一緒に裁判所に行く用事がある。ブルームは酒を奨められるが、酒は飲まないで葉巻を1本もらう。「市民」は酔っ払ってブルームに嫌がらせをしたり絡んだりしている。そこへジャック・オモロイとネッド・ランパードがやってくる。さらに陰気な顔をしたジョン・ワイズ・ノーランとゴールドカップ競馬で金をすったレネハンがやってくる。そして連中は、ブルームがダークホースのスローアウェイ号に賭けて大穴を当てたんだと思い込む。大金をせしめて独り占めしていると思われ、ブルームに対する風当たりは強くなる。そこへカニンガムがcastle carでやってきた。

「市民」がユダヤ人攻撃を始める。ブルームは冷静に対処するが、「市民」と言い争いになって、馬車に乗って立ち去り、「市民」がこの馬車に向かってビスケット缶を投げつける。

# ブルーム氏の足跡

図は「ユリシーズ」の謎を歩く/結城英雄著  
/集英社/1999年出版/p264より

## イントロ

### 第11挿話：15:40~16:30

-ボイランを見かけたブルームはオーランド・ホテル(①)に入りそこでマーサへの手紙を書く

郵便局で為替を同封してマーサへの手紙を投函(②)  
市場で魚を眺める(③)-(U-Y 12. 505)

### 第12挿話：16:45~17:40

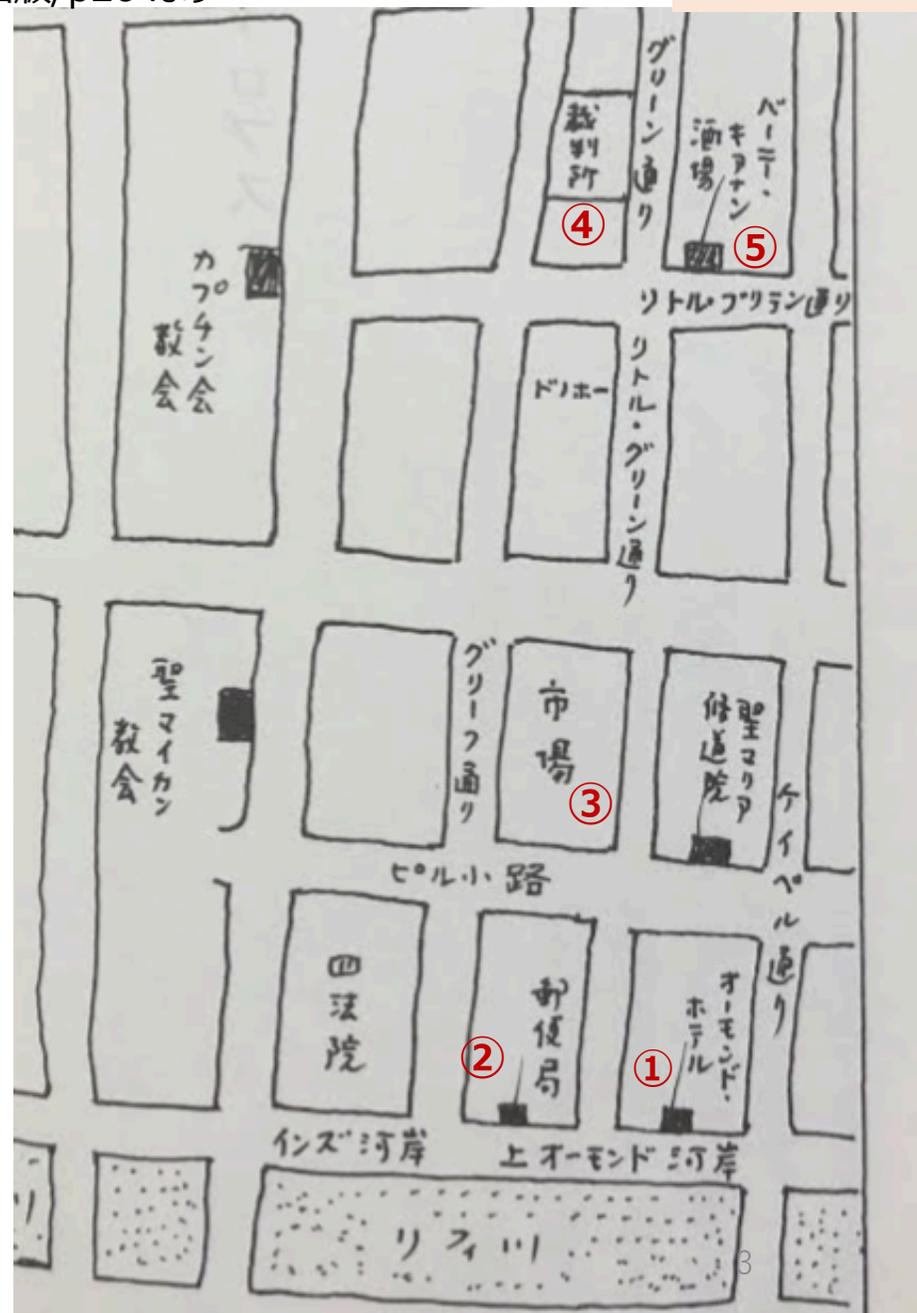
-ディグナムが生前加入していた保険の有効性を裁判所(④)で確認するために17:00にカニンガム氏、パワー氏と待ち合わせている

-ところが約束の場所にまだ彼らがあられないため酒場(⑤)の通りを行ったり来たりしている

-やがて通りをうろうろしている姿が酒場の連中に目撃され彼は酒場に招き入れられる(第8挿話、第11挿話で食事をした彼は空腹ではない。)

-そこで市民との騒動に巻き込まれる

ブルームはキュプクロス(「市民」)の待つ洞窟(酒場)に招かれ、  
そこでの騒動に巻き込まれる



# 1 人称と 3 人称の語り手

- ・本挿話は「おれ」という人物の 1 人称の語り手と、その間に33のパロディを挿入する 3 人称の語り手の 2 人の語り手により構成される。
- ・基本的には 1 人称の語り手→ 3 人称の語り手の順で酒場での出来事は記述される

	おれ	3 人称の語り手
記述方式	1人称	3人称
語り手の詳細	借金取りを生業 社会的には下層に属する様子	知識、ユーモアに溢れかつ多声的
語り相手	独白 (登場人物が相手なしで 台詞を言うこと・ひとりごと)	傍白 (作中人物が観客 = 読者 にだけ語ること)
語り口調	卑俗な庶民な語り	アイルランド文芸復興、中世ロマンス スポーツ新聞記事、医学雑誌 聖書、国会の議事録、民事訴訟法 の形式など多様
表現の方向性	矮小化(卑下して表現) = 縮小化	壮麗化(誇張して表現) = 巨大化

相反する 2 人の語り手がこの挿話には存在

## 3人称の語りの詳細①

番号	ページ数	直前の「おれ」、酒場の話題	3人称の語り手の内容	語り口調(鼎訳より)
①	497-498	商人モーゼスから茶と砂糖を騙し取ったゲラティに対し、「おれ」が取り立を行っている話	モーゼス＝売渡人とゲラティ＝購買人の権利・義務に関して	民事訴訟に関する文体
②	499-501	酒場に向かうまでの雑談	特産品・遺跡を交えてのアイランドの紹介	アイランド文芸復興期の文体
③	501	「おれ」は家畜商の会合で出た口蹄疫の話を「市民」に知らせたい	牛・羊・豚といった家畜についての詳細	アイランド文芸復興期の文体
④	503-504	酒場で「市民」に会う「おれ」	「市民」の屈強な肉体を描写	アイランド英雄譚の文体
⑤	505	「おれ」が魚市場でブルームを見かけた話	“オ”を付け威厳を付与されたブルームが歩く様を描写	アイランド文芸復興期の文体
⑥	506	乾杯。	通りがかりのブリン夫人を描写(この後彼らの話題はU.P.ことブリン氏に)	アイランド文芸復興期の文体
⑦	508-509	遅いぞテリーちゃん(ウェイター)	酒場での給仕が神々への奉納を彷彿	アイランド文芸復興期の文体
⑧	510-512	5分までに死んだはずのディグナムをさっき見た(実はブルームと勘違い)	亡霊として現世に降り立ったディグナム	降霊会の報告書の文体
⑨	513	ディグナムの死を嘆く面々	天に昇るディグナム	アイランド文芸復興期の文体

市民の描写→英雄譚、給仕→神酒、ディグナムの亡霊→降霊会とユーモアに溢れる3人称の語り手

## 3人称の語りの詳細②

番号	ページ数	直前の「おれ」、酒場の話題	3人称の語り手の内容	語り口調(鼎訳より)
⑩	515	死刑囚の介添をした理髪師の話	理髪師の介添のパロディ	中世物語と聖書の散文
⑪	516	ジョー・ブレディが処刑時に勃起していたことを説明するブルーム⇨場はしらける	生物学的にどのようなメカニズムで絞首刑直後に勃起するかが記述	医学雑誌の学会報告の文体
⑫	519-523	「市民」の愛国主義に傾倒した熱弁	1803年の蜂起の首謀者であるエメット処刑場面を描写	大事件を扱う新聞記事の文体
⑬	525-526	「市民」の飼い犬ギュリーオーエンとの絡み	ギュリーオーエンが人間のように詩を読んだ話	アイルランド文芸復興期の文体
⑭	527-528	ドーランがディグナム夫人にお悔やみを伝えてくれと言い、ブルームと握手をする	高貴な二人(ドーランとブルーム)の熱い友情と誓いを描写	19世紀の社交界小説のパロディ
⑮	530	ブルームの屠殺場時代の話。彼は雌鳥から卵をくすり取れるくらい手慣れていた	雌鳥が卵を生む様子を描写	子供用初級用読本のパロディ
⑯	531	フィニックス公園でのスポーツ禁止に伴い、ダブリン選出議員がロンドンの下院で質問を行う	質疑応答。フィニックス公園でスポーツをした人間は弾圧されても良いのですか！	下院議事録風
⑰	532-533	ゲールスポーツの復活を端に発して「市民」らとブルームは口論となる	聴衆のもとガリバルディ扮する「市民」とブルームの議論が展開される	会合の議事に関する新聞記事

勃起、握手、雌鳥の卵など物語的にはさほど重要に見えないことを誇張する3人称の語り手

### 3 人称の語りの詳細③

番号	ページ数	直前の「おれ」、酒場の話題	3人称の語り手の内容	語り口調(鼎訳より)
⑱	534-535	マイラー・キョーとパーシー・ベネットのボクシングの試合(第10挿話でもディグナム君が言及)	左のボクシングの試合の様態を実況	スポーツ記事風
⑲	536	モリーとボイランの演奏旅行の話(彼らはブルームが口を滑らせるのを期待する)	モリーに関する描写からのオモロイとランパードの登場の描写	中世ロマンスのパロディ
⑳	540-541	カナダ詐欺事件やルーベン担当の事件から、裁判で判事の情に訴えることの重要性を説く	12人の裁判官に陪審員が審理を行う様子が描かれる	アイルランド伝説の文体で法定記録を記述
㉑	543	アイルランド語が議題の市庁の幹部会議の行方はどうなったと問う市民	威厳のある元老たちが協議を行う	中世ロマンスのパロディ
㉒	544	唾壺英吉利！不実の白炒国 ＝フランス人がイギリス人を罵るさま	赤き手は勝利へ＝アイルランドの神話にかけてナショナリズムを促す	中世ロマンスのパロディ
㉓	546-547	アイルランドの森林が減っていることを嘆く面々	アイルランド国有森林庁森林守備隊長の結婚式の描写	社交界記事の文体のパロディ
㉔	550	「市民」らは英国海軍を罵る	ある一海兵の生活を描写	使徒信教のパロディ
㉕	553-554	君の国家は？と聞かれ、ブルームは私の国家はアイルランドであると答える	アイルランドの名所を紹介	新聞の美術記事の文体のパロディ

議論がアイルランドに関して及ぶと、自らの知識を存分に披露する3人称の語り手

### 3 人称の語りの詳細④

番号	ページ数	直前の「おれ」、酒場の話題	3人称の語り手の内容	語り口調(鼎訳より)
②⑥	556	ブルームは本当の人生とは愛であると語る	〇〇は〇〇を愛する。愛が伝搬していく様子を描写	壁・公衆便所の落書きのパロディ
②⑦	558-559	酒場を出て行ったブルーム。彼は競馬で大穴を当てたと勘違いされる	あばよアイルランド =とある若者が勝ち逃げしていく様か	ダブリンに幻滅した田舎者の言葉
②⑧	560	マーティン・カニングムの登場	旅人 = マーティンが酒場へ着く様子	教会のニュースの祝祭のパロディ
②⑨	563-566	マーティンがアーメンといい酒を飲む	マーティンを困む酒場の面々が聖職者のように描かれる	教会のニュースの祝祭のパロディ
③⑩	567-568	不穏な空気を察知してマーティンがブルームを店外に逃す	英雄たちの船出を描写	ホメロスの叙事詩のパロディ
③⑪	569-570	ブルームの乗る馬車にビスケット缶を投げようとする「市民」	酒場を後にするブルームをリポーディ・ヴィラグ閣下として高貴に描く	王室の新婚旅行を扱う新聞記事のパロディ
③⑫	570-572	はずれはしたものの「市民」の投げたビスケット缶の凄まじい威力たるや	ダブリン市内を大地震が襲う	天災を報じる新聞のパロディ
③⑬	572	逃亡するブルーム	神格化され天に昇るブルーム	聖書の文体のパロディ

酒場からの逃亡を英雄の船出～昇天と描き、ブルームを神格化する 3 人称の語り手

# 「おれ」について

取れそうにもねえ貸し倒れの取り立てやよ(U-Y 12. 498)

「おれ」は取り立て屋をしているらしい

見たかあの煙突掃除が俺の目ん玉をブラシで危うくえぐるところだったぜ(U-Y 12. 497)

「おれ」は煙突掃除者にブラシを当てられるそうになる  
当時下層の職業だったせいか、煙突掃除屋に気にもされなかったようだ

- －何にする、市民、ジョウが云う。
- －お国のワインだ、やつは云う。
- －**おまえは何だ？** ジョウが云う。
- －同じく異議なし、俺は云う。
- －三パインドだ、テリー、ジョウが云う。(U-Y 12. 502)

なぜか「おれ」だけ名前を呼ばれない

訳者の柳瀬氏は正体不明の語り手「おれ」に対して斬新な仮説を提示する

# 「おれ」=犬 柳瀬氏の発犬①

「ジェイムズ・ジョイスの謎を解く」 柳瀬尚紀著/岩波新書/1996出版から

柳瀬氏の主張：**一人称の語り手「おれ」の正体は犬である**

## 要点①：冒頭の違和感

(i)見たかあの煙突掃除が俺の目ん玉をブラシで危うくえぐるところだったぜ(U-Y 12. 497)

⇒「おれ」は掃除人に目をブラシでえぐられそうになる。

そもそも最下層の人間だったとしても、謝罪もなくこのような対応は取れるものか？

(ii)振り向きざまにひと吠え浴びせようとした(U-Y 12 497)

I turned around to let him have the weight of my tongue … (U 12. 3)

⇒give tongueは猟犬が吠えるの意。人間も吠えるだろうがこのような表現を使うだろうか？

(iii)鑑札もねえ分際でなどとぬかしやがって(U-Y 12. 499)

⇒「おれ」は鑑札がないことを仕切に気にしている。鑑札がなく借金取りをしていることを気にしているのか？

これは鑑札がない犬 = 野良犬であることを気にしているのではないか？

(iv)あの駄犬(ギユリーキアナン)は身の毛の逆立つふてくされた声を放ちやがった(U-Y 12. 501)

⇒ギユリーキアナンを嫌う。人間であれば犬に対していちいち気にするだろうか？

冒頭の違和感からどうやら「犬」の存在が匂う

# 「おれ」=犬 柳瀬氏の発犬②

「ジェイムズ・ジョイスの謎を解く」 柳瀬尚紀著/岩波新書/1996出版から

柳瀬氏の主張：**一人称の語り手「おれ」の正体は犬である**

## 要点②：「おれ」がいなくても会話は成立する

(U-Y 12 497-498)のジョーと「おれ」の会話に関して「おれ」部分を犬語にすると  
(犬語は「おれ」の柳瀬氏の訳、青枠は柳瀬氏が考えるジョーの思考とその解説)

—煤とは演技がいいやな。いま話した老いぼれ金玉は誰だ？ ジョーの独り言で彼は、答えを求めている

—キャンわん。きゃん。うーきゃんわんわん、わんきゃんきゃんきゃんきゃんわんわん

—こんなところで何してる？

同様に彼は答えを求めている(自分で言って、自分で納得)

—わんきゃんわんわんきゃんきゃん。きゃんきゃんわうーん

—割札ユダ公か？

そういえばユダヤ人のあたりを犬がうろうろしてたな

—わん。きゃんきゃんわうーん。わんきゃんわんきゃん。

—あそこで食いつないでるんだな？

ジョーの独り言で自分に確認しているに過ぎない

—わん。わんきゃんきゃんわうーん。わんわんわん。きゃんきゃんわうーん。

「おれ」はジョーの言っていること(人語)が理解できそれに返答している

一方、ジョーは「おれ」の言っていること(犬語)が理解できない

⇒ジョーと「おれ」との会話はジョーの一方通行の会話であり、ジョーは自分の言ったことに納得しているだけである

語り手の「おれ」がいなくても会話は成立する(らしい)

# 「おれ」= 犬 柳瀬氏の発犬③

「ジェイムズ・ジョイスの謎を解く」 柳瀬尚紀著/岩波新書/1996出版から

柳瀬氏の主張：一人称の語り手「おれ」の正体は犬である

## 要点③：Gobにみる柳瀬氏の発犬

どベツ、こいつは碌でもない阿保面ほどには青二才じゃねえや。(U-Y 12. 526)

**Gob**, he's not as not as green as he's cabbagelooking.

Gob=begob：通常の英語ならばby God (祈願、感嘆、罵りを表す間投詞)

⇒ジョイスは敢えて「d」を裏っかえして「b」としGobと表現した。

～裏っ返せよと主張するように～

⇒すなわちGobのもとであるGodをひっくり返すと**Dog**が出現する

柳瀬氏は翻訳では上とは逆の操作で「どっぐ」という語から「おれ」の発する間投詩(犬投詞)“どベツ”を作った

①dog→bog=どっぐ→どっべ

(「d」を反転させて「b」を作るように「く」を90°回転して「へ」を作る)

②bog→gob=どっべ→どベツ

(「っ」と「ベ」を入れ替えることでジョイスと同じ操作を実現。「ど」と「ベ」を入れ替えなかったのは響きを重視したためか)

テキストから「犬」を発犬した柳瀬氏。本人談では将棋の羽生棋士との対談で閃いたとのこと。

# 「おれ」=犬 柳瀬氏の発犬④

「ジェイムズ・ジョイスの謎を解く」 柳瀬尚紀著/岩波新書/1996出版から

柳瀬氏の主張：**一人称の語り手「おれ」の正体は犬である**

## 要点④：「おれ」と酒、テリー、ギュリーキアナン

- おまえは何にする？ ジョウが云う。
- 同じく異議なし(「おれ」の台詞)
- 三パインドだ、テリー、とジョウが云う。(U-Y 12. 502)
- ⇒「市民」、ジョー、「おれ」で三パインドではないのか？
- ⇒犬である「おれ」ではなくウェイターの「テリー」に酒を奢ったと柳瀬氏は主張する。
- 実際に「おれ」が酒を飲んだ描写は第12挿話中に明確に描写されていない。



ちなみにU-Y. 8 504に登場した  
テリアこそ「おれ」であるらしい

「おれ」の台詞：云ったとおりだろ？ おれがあの野番野郎に飲ませてやってるのと同じくらい(以下略) (U-Y 12. 550)

柳瀬氏はporterと「おれ」とは対等の存在であり、porterとは店の番犬ギュリーキアナンに他ならないと主張。  
すなわち、この文章は「おれ」が同じ犬であるギュリーキアナンに酒ではなく水を飲ませている描写とのこと。

・・・ちなみに柳瀬氏はこの論証を行うためか、ギュリーキアナンは「市民」の飼い犬ではなく、  
ウェイター・テリーの飼い犬(=酒場のporter)であり酒場に入り浸っていると主張する。

個人的には流石にここらへんの論証は少し飛躍があるかと・・・  
以上よりユリシーズ第12挿話の柳瀬訳は「おれ」=犬としてその目線で訳される

# 他挿話の伏線の回収①

## 当選者ブルーム

スローアウェイ

ライアンズに新聞を見せてよと言われたブルームはちょうど新聞を捨てようと思っていたんだと言う。この時今日のレースでどの馬に賭けるかで頭がいっぱいであったライアンズは、これをブルームがゴールドカップ・レースの出走馬スローアウェイに賭けたと勘違いした(U-Y 5. 150を要約)

\*ゴールドカップ・レースは1904年6月16日 15:00出走のレースで穴場のスローアウェイが勝った  
⇒第12挿話の直前にレースは終了

\* \* 鼎訳ではスローアウェイ号と訳しているが、柳瀬氏は出走馬をモイラニン号(もういらぬ)号と訳し、日本語にて二人の行き違いを表現

バンダム・ライアンズに出会ったらあの馬にかけるてんで俺はやめさせたんだがブルームから裏ネタを仕入れたって云ってた。間違いねえや、あいつは五シリングで百も儲けやがった。(U-Y 12. 558)

ブルームは大穴を当てたと勘違いされ、この後「市民」らに大金が入ったのになぜ奢らないのかと罵られる

## 他挿話の伏線の回収②

### 名誉毀損の犯人は

—U・P。アッパッパーよ、と言った。誰かがおちゃらかしているんでしょう。ひどいことするわ、誰だか知らないけど  
(グリーン夫人が夫に届いた葉書の内容をブルームに語る U-Y 8. 272)

U・P。アッパッパー。きっとアルフ・バーガンがリッチー・グールティングの仕業だ。スコッチ亭あたりでふざけて書いたに決まってる  
(ブルームの独白 U-Y 8. 275)

—あの気違いブリーの野郎にあそこで会ったかい？ アルフが云う。U・Pさ、あっぱっぱー。

—お前の仕業じゃないのか、アルフ？

(中略)

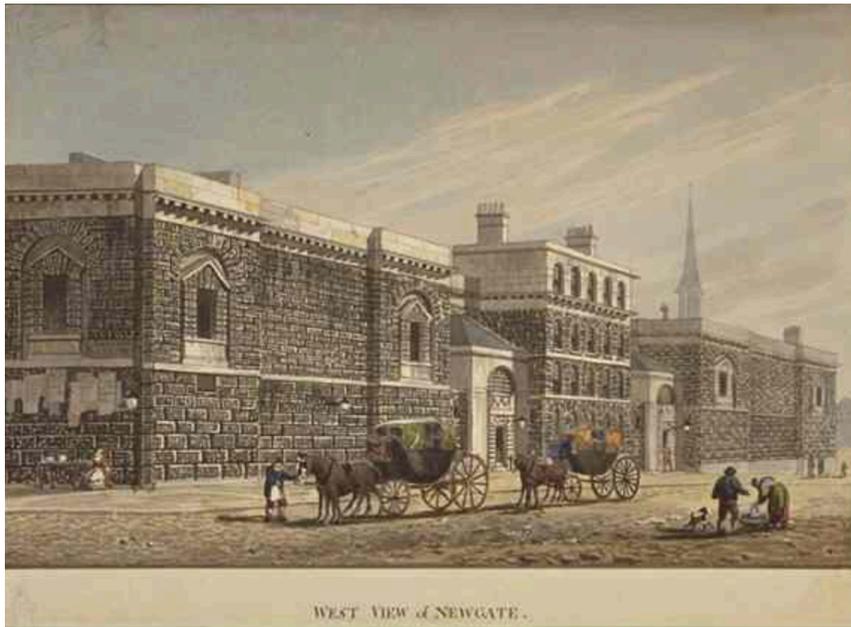
—それにしても、ブルームが云う、可哀想な女ですね、つまりその奥さん  
(U-Y 12. 547-548)

グリーン氏にU・Pの手紙を送った犯人はアルフ・バーガンか

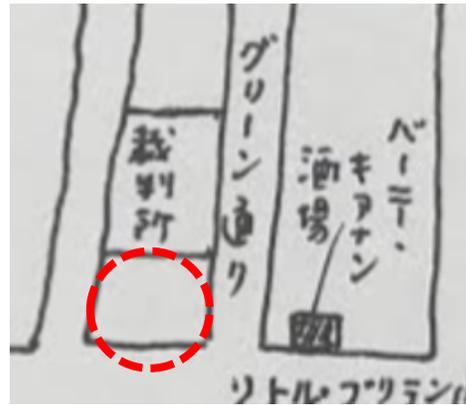
# アイルランドの歴史と第12挿話

- 1801：連合法施行。アイルランド議会はイギリス議会に併合。
- 1829：カトリック解放令施行。カトリック教徒は被選挙権を獲得。
- 1843：ダニエル・オコネル、連合法撤廃を求め各地で大集会を開催
- 1845-1849：大飢饉が起こる。餓死者、移民多数で人口が激減  
行方不明の二千万人のアイルランド人は  
どこにいったっているってんだい、四百万人ではなくこんにちここにいるはずだよ(U-Y 12. 545)
- 1858-1867：フェニア会の結成～蜂起。実力行使によるアイルランドの独立を目指す
- 1869：アイルランドの国教会制度の廃止
- 1880：パーネル議会党党首に選ばれる
- 1882：フェニックス公園暗殺事件。無敵革命党員、アイルランド長官と次官を刺殺
- 1883：無敵のジョウ・ブラディを吊したときの話だ(U-Y 12. 515)
- 1884：マイケル・キューサック、ゲール体育協会を設立
- 1890：パーネル、人妻との密通により失脚
- 1899：イエッツ、グレゴリー夫人らアイルランド文芸劇場設立

# Newgate監獄とエメット

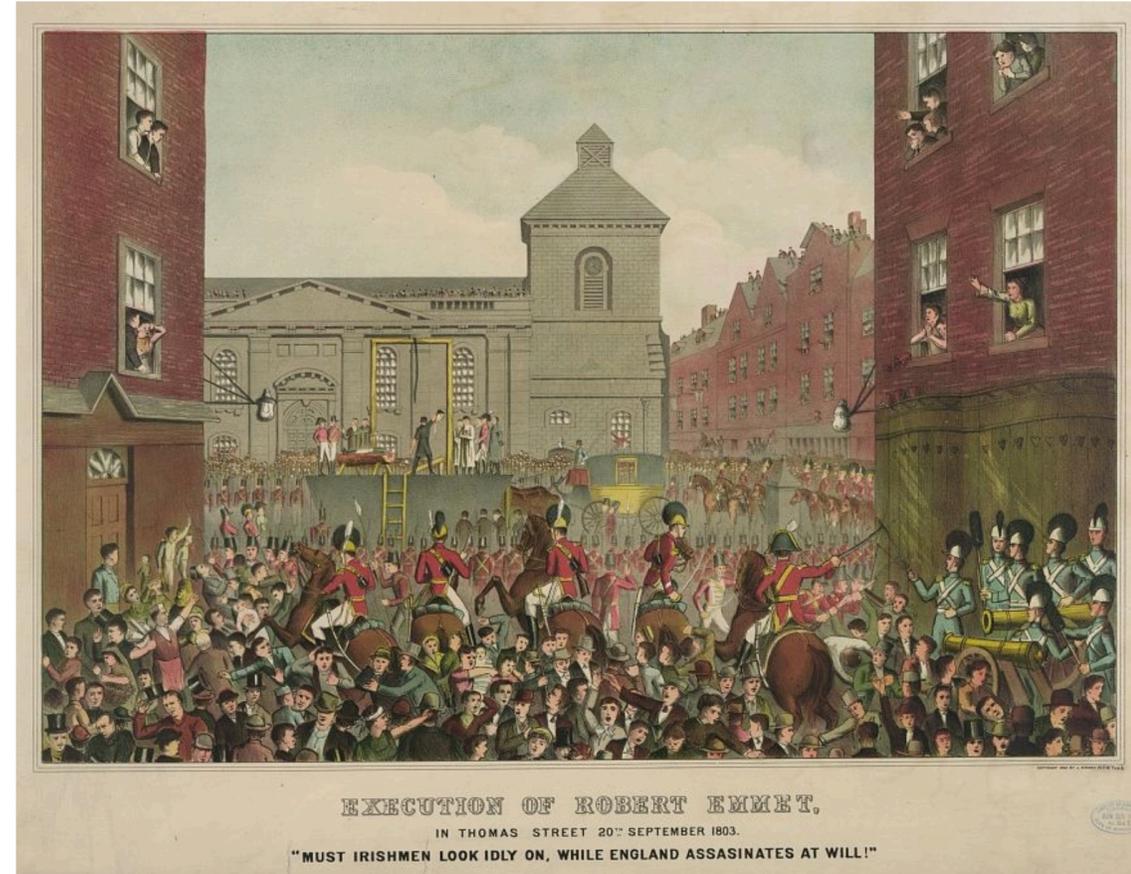


絵は19世紀のNewgate監獄(Wikipediaより)



Newgate監獄は裁判所の南でバーニー・キャナン酒場の向かいに位置

⇒アイルランド独立の志士が多く投獄されたNewgate監獄の近くのバーニー・キャナンを第12挿話の舞台として設定



<https://www.theirishstory.com>

1798年Newgate Gaolに投獄されたエメットは1803年9月20日にトーマス・ストリートの聖キャサリン教会の前で処刑された(前述の3人称の語り手のパロディ⑫)

# 市民とは

1884 : **マイケル・キューサック**、ゲール体育協会を設立

ゲールのスポーツの復活をやってのけた男がよ。今ここにこうしてお座りだ(中略)十六ポンド砲丸投げの全アイルランドチャンピオン(U-Y 12. 531)

マイケル・キューサックが「市民」のモデルとされる。ゲールはアイルランド土着の。  
イェッツがアイルランドの文芸を復興しようとしたのと同様、彼はスポーツの面からアイルランド文化を復興させようとした

円形塔の下のゆっくりとした丸石の座せる。(U-Y 12. 503)

(中略)筋骨逞しき腕の英雄に姿なりき。(中略)岩のごとく山のごとく盛り上がる膝は(中略)さらに高き壁巡らせたる洞穴をぶるんぶるんと震わせたり。

「市民」の屈強・勇ましさの華美な描写

音楽もねえ芸術もねえ文学もねえまともなのはな。やつらの文明ってのはどれもこれも俺らからかっぱらたものじゃねえか。(U-Y 12. 544)

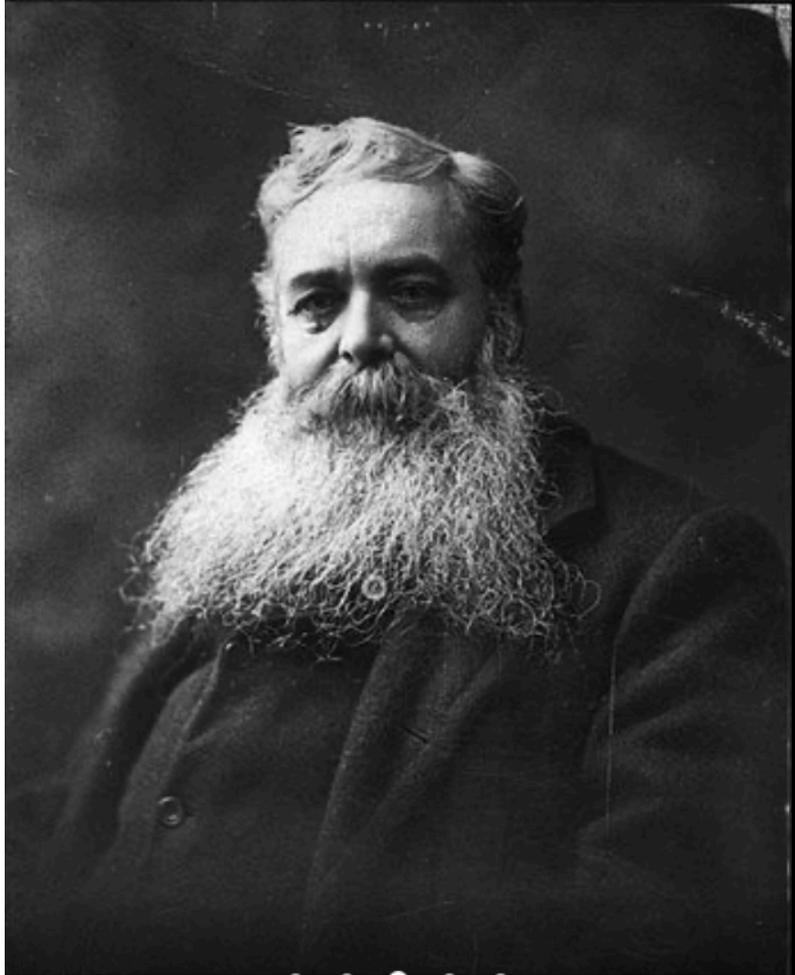
国粹主義者の「市民」はイギリスが大嫌いである

あのユダ公の脳天をかち割ってやる(中略)そのバスケット缶をこっちによこせや(U-Y 12 569)

ブルームに腹立った「市民」は自慢の強肩を生かし去り際のブルームにバスケット缶を投げる  
第12挿話はイギリスに支配されるアイルランド人がユダヤ人を蔑むという構図

# キュブクロスについて

Michel Cusack



遊戯王カードに登場する  
キュブクロス(サイクロプス)  
・・・私としてはこのイメージが強い

「市民」はキュブクロスの象徴であり、一つしかない目は彼が単一の視点しか持ち得ないこと  
＝世の中に対して視野が狭いことを象徴する

# nation

**nationの訳**(赤字は原文中いずれもnation)

- 迫害っていうのは、やつは云う。世界の歴史全てがそれに満ちています。国家間に永続する国民的な憎悪です
- しかしきみは国民のなんたるかを知っておるのかね
- (中略)国民とは同じ場所に住んでいる人々のことです
- あんたの国家はどこだよ
- アイルランドです。ブルームは云う。僕はここで生まれましたからね。アイルランドです。(U-Y 12. 553)

	ブルーム	市民	近い概念
ルーツ	ハンガリー系ユダヤ人	ゲール人	民族
信条	フリーメイソンと噂(友愛主義)	国粋主義者	思想
居住地	アイルランド	アイルランド	国家

nationは政治学において最も難しい概念の一つ。民族、国家と訳されることが多い。  
その派生語であるNationalismとは近代以降、国家内の民族や思想の整合性を取ろうとする動き

「市民」は民族・思想・国家と確固たるアイルランド人のアイデンティティがあるのに対し、ブルームは3者が異なり不安定なアイデンティティの上で生活している

# 政治的主体としての市民

## 国民≠市民

政治学によると国民とはその国家の国籍を有する構成員であるとされる。  
一方、市民とは政治的主体としての構成員であるとされる。

市民とは近代において絶対君主に対して臣民が主権の獲得する過程で生まれた概念である。  
その際に生じた社会変革は市民革命とも呼ばれ、立憲君主制を実現した17世紀のイギリス革命、1789年のフランス大革命がこれにあたる。

このような歴史的な背景から市民は政治的な参画者としての民を指す意味合いが強い。  
(よく言われるのは日本人は革命・蜂起により主権を獲得したわけではなく、戦後突如GHQにより主権が付与されたためこの「市民」という概念には疎いとのこと)

独立運動が失敗してくすぶっていた1904年当時、ダブリン市民は自治権・独立といった政治的関心は高かったと思われる。  
そんな背景のもと学芸が政治学である第12挿話にてCitizen(市民) と名を与え彼を登場させたではなかろうか。

このような文脈から個人的にはダブリン市民というタイトル・人物には生活者だけでなく政治的な意味合いを意識してしましますが

# 愛

## 愛です

侮辱や憎悪は。そういうのは本当の人生とは正反対なんだってことは誰だってわかりますよ。

—何のこと？アレフは云う

—愛です。ブルームは云う(U-Y 12. 555)

彼の語る「愛」とは？

## 他挿話に見る「愛」(いずれもスティーブンの独白)

ここで一人ぼっちなんだ。ねえ、すぐにいますぐ触ってよ。男なら誰しも知るあの一語はなんだっけ？(U-Y 3. 92)

母の死の床をトラウマとして引きずる彼は無性な寂しさを感じる

愛、そう。万人の知る言葉。愛は我々が何かを望むとき人に善きことを求める。(U-Y 9. 334)

スティーブンはそれが愛であると悟る。そしてその実現には他者への善行を要請されると説く

## ジョイスの描く愛

スティーブンの「愛」→根底にあるのは母の愛 = 全てを受け入れる「愛」

ブルームの「愛」→他者への侮辱・憎悪への対義語としての「愛」→あるがままの他者を受け入れ、尊重する「愛」

他者の存在を肯定しあるがままに受け入れる「愛」をジョイスは解こうとしたのでは

分断を乗り越えるのは「愛」。これは現代にも十分通じるテーマである

# なぜブルームが主人公なのか(第12挿話で際立つ英雄像)

## 二人の対比

	ブルーム	市民
ルーツ	ハンガリー系ユダヤ人	ゲール人
信条	フリーメイソンと噂(友愛主義)	国粋主義者(排外的)
居住地	アイルランド	アイルランド
作中における性	家庭的で女性的	スポーツを復活させるなど非常に男性的
容姿	脂ぎった鼻、扁平足など揶揄される	屈強な英雄を彷彿させる
動物との関わり	猫やカモメに食事を与える優しい一面が描かれる	連れ犬であるギュリオアエンを虐待する描写もある
大切なものは	愛	力
オデュスセイアとの対比	英雄オデュスセウス	巨人キュプクロス

ジョイスは従来の理想的な英雄像である「市民」を対比的に登場させることで不確かなアイデンティティに立脚しながらも、家庭的で他者への愛に満ちた新しい英雄を描こうとしたのではないか

現代に生きる生活者(私)としては神話的な英雄「市民」よりも苦悩しつつも他者への共感に満ちたブルームに惹かれるわけである

# ユリシーズ第12挿話のまとめと感想

## Initial Style

スティーブンの物語：  
第1、2、3、7、9挿話

ブルームの物語：  
第4、5、6、8挿話

**主人公による語り**

## 第10挿話

19のダブリン市民のセクション  
とスティーブン、ブルーム  
の特権的地位の排除

**語りの民主化**

## 第11挿話

音楽による  
意識、語りの混在

**語りの融合**

## 第12挿話

共通な場での  
近視眼で矮小な語りと  
巨視的で壮麗な語り

**全面的な語りの  
多声化**

## 第13挿話

共通な出来事に対しての  
主人公の語りと  
別視点での少女の語り

**主人公の語り  
に対するアンチテーゼ**

第12挿話にて全面的に多声の語りに(もはやアレンジャーと呼ぶにはあからさますぎる)  
そして次回はユリシーズ史上最もロマンチックでドラマチックな第13挿話へ(個人的に一番好きです)  
第13挿話、そして鼎訳が伝説な翻訳と言われた第14挿話を柳瀬訳で読みたかった。。。  
今回は柳瀬訳最終回ということでページを割いて発犬伝を紹介させていただきました。柳瀬先生ありがとうございました！